

八百津町体育協会主催「町民スポーツ大会」

5月10日、八百津町体育協会主催の「町民スポーツ大会」が開かれ、野球やソフトバレー・剣道・サッカーなど6種目の競技に町民ら約500人が参加、気持ちの良い汗を流しました。

はじめに八百津小学校体育館では開会式が行われ、長年スポーツの振興に寄与された体育功労者表彰と、全国や県の大会で前年活躍した優秀選手表彰が佐藤悦男体育協会長から贈られました。

このあと各会場に分かれ、少年野球教室、ソフトバレー交流会、テニスチャレンジコーナー、町民ソフトボール交流会、ミニサッカー交流会、町民剣道稽古会のすべてで賑わい、白熱した戦いが展開されるなどまさに熱い一日となりました。



ミニサッカー交流会の様子

庁舎前を花で華やかに



花植えの様子

5月26日、役場前で、八百津町農業婦人クラブ(山本康子会長)の会員8人が、プランターにペゴニアの苗約200株を植え、同庁舎前のフラワースタンドに並べ、来庁するお客さんの目を楽しませています。

同クラブは平成4年から18年間この活動を続けており、毎年春と秋の2回、季節に合わせた花を飾っています。

この日は町職員も手伝い、腐葉土と町内牧場から譲り受けた牛ふん堆肥を混ぜ合わせた土をプランターに詰め、苗を植えました。苗は既に花をつけており、赤、白、ピンクのペゴニアがきれいに並び、役場に訪れたお客さんもつい足を止めて眺める場面も…。

山本会長は「訪れる人がこの花を見て心が安らげばうれしい」と話していました。

園児らが大地震を体験

5月26日、八百津保育園と錦津保育園で、園児らが地震体験車に乗り、震度7などの大きな地震の揺れを体験しました。

体験した園児らは、中規模の地震は余裕の表情を浮かべていましたが、震度6以上の揺れになると、激しい揺れにしっかりとテーブルの脚にしがみつき、こわばった表情で、揺れが収まるのをじっと待っていました。

地震体験車を準備した可茂消防事務組合八百津出張所の渡辺徳男所長は「本当の地震は、この体験車のように、あと何秒で起きるといことがわかりません。今この訓練をしているときにもやってくるかもしれません。万が一起きたときは、慌てないで素早く安全なところに逃げてください。」と園児らに心構えを話していました。



テーブルの脚に必死にしがみつく園児ら